

【練馬区立橋戸小学校・学校評価資料～アンケート結果から～】

※ 学校評価アンケートの結果は、A3 判の資料に、教員・保護者・児童それぞれの、項目別の割合を示しています。
この裏面には、3年分のアンケート集計における平均値の推移を載せ、経年変化の分析が可能です。
今年度のアンケート集計に基づく簡単な分析を以下に示します。ご意見を頂戴できると幸いです。

【楽しい学校 ☆】

・今年度の学校づくりの柱に「学校は楽しいところだ」を掲げ、重点に取り組んだ。三者の肯定的評価(4 かなりそう思う・3 そう思う)は引き続き9割前後と高い割合を示すが、児童の否定的評価はまだ1割を超えており、十分な成果とまでは言えない。次年度も引き続き「楽しい学校づくり」という重点を継続し取り組む必要性を感じる。

【学力の向上 1～3】

・学力向上、とりわけ基礎的・基本的な学習内容の定着は、本校の最重点課題である。アンケートでは、3項目それぞれについて、概ね高い評価を得てはいるが、学力調査結果などから判断すると、引き続き努力が必要といえる。とはいえ、研究の成果である「書く力」は、多くの学年で成果が現れ始めている。また、児童からのICTに関する評価が今年度も下降傾向にあることから、校内研究や研修の充実とともに、ICT機器の活用に係る日常的な取組の継続が重要と考える。

【豊かな人間性の育成 4～6】

・「自分の考えをもち、伝える力」の評価は、三者とも低く、課題として継続する。
・学校図書館の運営や読書活動の取組については、児童の評価が低いことについて、毎年話題に取り上げてきた。平均値で見ると大きく傾向は変わらないが、実際には肯定的評価の割合は緩やかに増加しており、取組の成果は徐々に出つつある。今年度新たに取組んだことや継続してきた本校独自の取組を含め、引き続き、担当分掌を中心とした実践を継続していく。

【健康教育の推進 7・8】

・「体力づくり」「規則正しい生活」双方で、三者ともに否定的評価が2割を超えており、改善を図る必要がある。中でも、教員の評価が低下傾向にあるため、各自の問題意識に基づき、個々の取組を見直すなど、具体策を講じる必要がある。コロナ禍から始めた手だてがマンネリ化してくる時期とも考えられるため、思い切り身体を動かす機会の確保や運動遊びの推奨を継続すると共に、新たな体力作りプランを検討し取り組むことも、視野に入れる必要がある。

【特別支援教育 9】

・肯定的な評価の割合の上昇が見られる。本校では不登校傾向の児童の割合も高く、対策を強化してきており、ステップルールの運営や支援員の確保などの不登校・集団不応児対策の成果が、評価に反映しつつあると考えられる。さらに、教員自身が“多様性の理解と学びの保障”を理解し実践できるよう、引き続き学ぶ機会を設ける。

【いじめ・体罰への組織的対応 10・11】

・教員・保護者の評価は、昨年度に比べ持ち直している。対応が必要な状況は、どの学年にも起きる可能性はあるが、適切な初期対応、丁寧な児童理解に基づく動きが評価に反映されたものであれば、喜ばしい。児童の評価は概ね変化ないが、いじめや暴言のない学校・学級を目指し、児童の実態を丁寧に把握し、情報共有に努めると共に、相談しやすい雰囲気や居場所のある集団作りに取り組む。

【保護者・地域との連携 12・13】

・「地域連携・学校からの発信」に関しては、大きく評価の傾向は変わらない。引き続き、連携強化と学校からの情報発信に努め、開かれた学校づくりを進める。また、教員の「異校種連携に関する評価」は、極めて低い傾向が続いている。小中一貫教育の推進は区の主要施策であるが、具体的な進め方については、校区の学校間で情報を共有し、よりよい方向に進むよう改善を図る必要がある。

【児童の実態 14～17】

・4項目すべてにおいて、児童の肯定的な回答の割合は高く、自己肯定感の高さは変わらない。
教員が低く、保護者は若干高く、児童は高めの傾向に大きな変化はないが、教員と保護者の開きは縮小傾向にある。

【働き方改革の推進 18・19】 *保護者・児童には質問項目なし。

・数年来、練馬区からも働き方改革の具体策が出され、学校としても取組の具体化と可能な範囲で推進に努めてきた。出退勤システムの運用が定着し、勤務実態の把握、在校時間減に向けた共通理解は進んでいるが、大きな改善までは至らない。一方、年度当初から欠員のあった昨年度に比べると教職員の働きやすさは良化傾向にあると思われ、徐々に評価結果にも反映してきている。